

ハウスの適切な温度管理！ 苗ヤケに注意！！



～苗ヤケ対策は十分に注意しましょう～

今年、4月7日以降数日周期で天候不順があり、多少の遅れはあるものの管内各地で田植に向けた準備が進んでいます。新潟地方気象台の向こう一か月の予報によると(4/11～5/10)第一週目は平年並みで推移するものの、天候は数日周期で変わり平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

体感温度が低くても、日照があるだけでハウス内の温度は急激に上昇しますので十分注意しましょう。高温・高日射条件では、苗が徒長しやすくヤケ苗が発生しやすくなりますので換気を行うなどこまめな管理を心掛けましょう。

1、育苗後半の管理ポイント

○緑化期（期間：2～4日 温度：昼間→20～25℃ 夜間 15～18℃）

- ① ラブシート・ミラシート等の一枚被覆ですが、10℃以下にならないよう「ビニールの閉める時間を早める」「夜間被覆資材を掛ける」等の保温対策をしましょう。

※低温(特に夜間 8℃以下)が続いた後、天候が回復して高温になった時などムレ苗が発生しやすくなります。

- ② 土が乾いている場合は遅くとも午前10時までに灌水し、第1葉が展開したら被覆資材を剥がし硬化期に移しましょう。

○硬化期（期間：12～13日 温度：昼間→15～20℃ 夜間 10℃以上）

- ① 前半は1日1回午前中に十分灌水しますが、後半は床土の乾燥具合を見て1日2回(午後3時まで)灌水しましょう。

葉先に水滴が一斉につくのは、床土に水が十分にあり、根も健全な証拠です。水滴が少ない場合や水滴がつかない場合は、「床土の水分不足」か「根の障害」が考えられます。

- ② 田植5～7日前から外気に慣らすため夜間も換気を行いましょう。

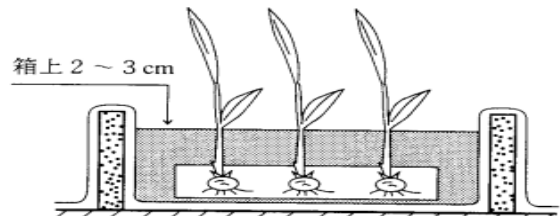
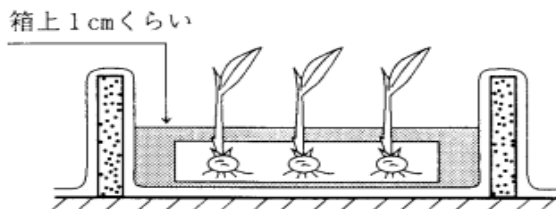
○プール育苗

- ① プール育苗は慣行育苗に比べ、徒長しやすく移植後低温の影響(活着が劣る)を受けやすい傾向があります。プール育苗にするとマット形成は良くなりますが、発根数及び細根が少なめになるので、**苗質向上と活着促進のため必ずべんとう肥等の育苗追肥資材を活用してください。**葉数が1.1葉期頃に入水しましょう。水の深さは箱上1センチとします。

- ② プール内に水を入れたら原則として昼夜ともサイドビニールを開放しましょう。**水が汚れたり、高温による水温上昇のため苗の徒長が心配されたりする場合はプール内の水を交換しましょう。**

・入水時の苗姿(緑化終了時)

・2葉期以降



**低温時の水温に注意！10℃以下にならないようにしましょう！
またハウス内は30℃以上にならないようにしましょう！**

○育苗追肥資材

資材名	規格	税込価格(当用)	処理方法	使用時期	1箱当たりの散布量		希釈	1箱当たり化学窒素
					薬液量	水量		
ケルパック66ミニ	120ml	¥1,274	灌注	播種時又は緑化期	0.2ml	200ml	1000倍	-
MR-X	1ℓ	¥3,693	灌注	緑化期～硬化期	1ml	500ml	500倍	-
アミグロー	1ℓ	¥2,505	灌注		1ml	500ml		
くみあい液肥2号	6kg	¥1,231	灌注	移植4日前～前日	10～15ml	500～750ml	50倍	1.0～1.5g
べんとう肥	5kg	¥1,004	散布		15～20g	-		

2、育苗箱剤の施用と細菌性病害について

いもち病の発生が多かった地域、前年いもち病が多発生した圃場では育苗箱施用剤による防除を行ってください。またイネドロオウムシ、イネミズゾウムシは前年の発生が多いと今年も発生が多くなる傾向がありますので施用をお願いします。**多収性品種「新潟次郎」は多肥栽培となるため、いもち病、害虫(ニカメイチュウ、イネツトムシ等)の箱処理予防は必須です。紋枯病についても箱処理もしくは本田防除で対応しましょう。**

薬剤名 (節減対象農薬成分数)	主要摘要病害虫名	規格	税込価格 (当用)	使用方法	使用時期	1箱当り 使用量
フェルテラ箱粒剤 (成分数①) 特別栽培米指定資材	ニカメイチュウ イネアオムシ イネツトムシ イネミズゾウムシ	1kg	2,257	育苗箱の上から均一散布	播種前～移植当日	50g
ワンリード箱粒剤 (成分数①)	イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウンカ類	1kg	1,188		播種覆土前～移植当日	
Dr.オリゼフェルテラ箱粒剤 (成分数②)	いもち病 イネドロオウムシ イネミスソウムシ ニカメイチュウ ウンカ類・イナゴ	1kg	3,358		緑化期～移植当日	

ばか苗病発生拡大の防止

近年ばか苗病の発生が増加しております。

ばか苗病は本田では薬剤防除が出来ません→種子消毒を徹底が基本ですが、育苗段階で発生が見つけたら、株ごと抜き取り、本田への持込みを防ぎましょう。(出来れば箱ごと廃棄する。)

☞抜き取った株は放置せず、土に埋めるなどして処分しましょう。

細菌性病害に要注意

○苗立ち枯れ病

種類はフザリウム菌、ピシウム菌、リゾプス菌等様々な糸状菌があり、主に高温多湿条件下の育苗期に発生します。病原菌の種類によって異なる病状を示します。



☞症状を出さないためには

日中の過度な高温や、夜間の低温にあわないように注意し適切な温度管理を実践しましょう。(温度差のないように)

**※エコホープやタフブロック等の微生物農薬を使用した場合、カビが発生することがあります(エコホープ:青～青白のカビ
タフブロック:黄～赤橙色のカビ)。エコホープ、タフブロック由来のカビであればイネの生育に問題はありません。**

3、本田作業管理のポイント

- ① 本田作業はあわてず急がず、可能な限り田の乾きを待って天候の安定した日に作業を開始して下さい。
- ② やむを得ず過湿状態で耕耘した場合は、稲わらの腐熟が進まず、生育初期から土壌が還元状態(酸素不足)となり稲の生育に影響を及ぼすことが懸念されます。
- ③ 植えつけ深さは2～3cm程度の浅植えとしましょう。地温の深さが1cmごとに地温が約1度低くなりますので活着促進のため、深植えにならないようにしましょう。
- ④ 初期生育の促進には田植後の水管理が重要です。活着するまでは低温や強風対策のため深水とし、保温的水管理を徹底しましょう。

※初期除草剤の移植前処理は7日前までです！使用の際には十分注意してください！[5月10日植えの場合]

日数	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
日付	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日
7日前までは使用可能	←-----この期間は使用できません!!-----→								田 植 日	